

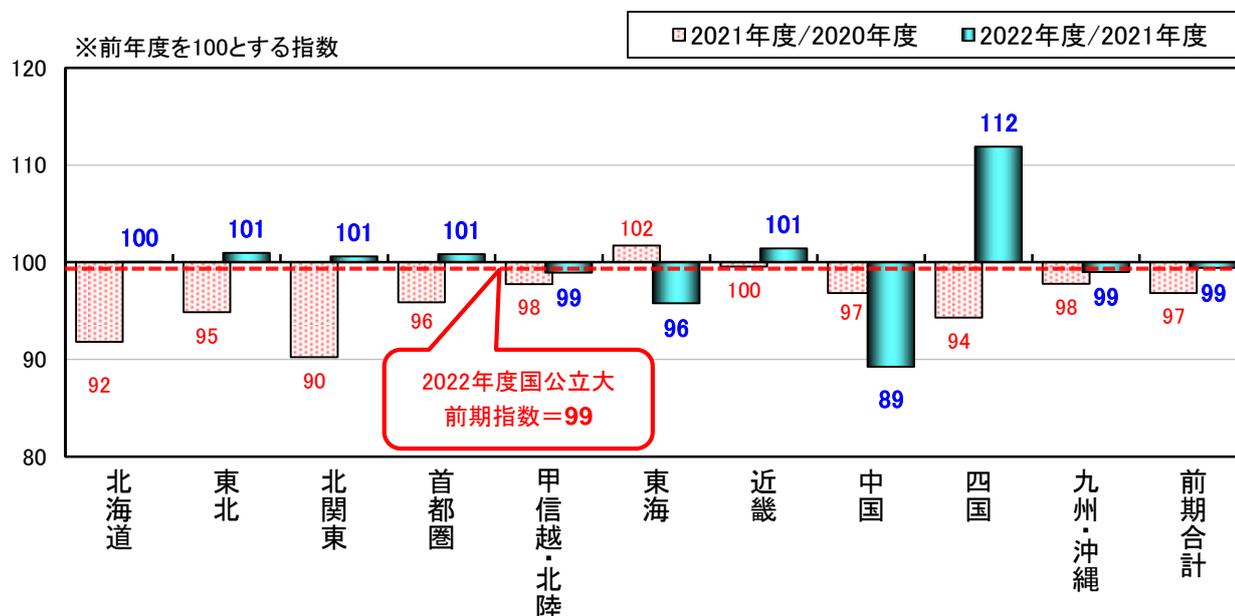
※本文内の（ ）内の数値は志願者数の前年度確定数との対比指数を表します。

◎地区別志願状況

□前期は四国が増加、中国が減少、東海がやや減少

〔地区別志願者指数〕

<前期日程>



○北海道(100)…13大学中7大学が減少。

【志願者数】北海道大(+305人)は前年度コロナ禍の影響から道外からの志願者数減少もあり、志願者数は減少したが、その反動もあり増加となった。一方で、北海道教育大(-319人)は系統への低い人気に加えてコロナ禍による移動の敬遠による極端な地元志向の緩和から札幌校以外で減少した。

【志願者指数】北見工業大(131)、室蘭工業大(127)は大幅増加。一方で、旭川医科大(63)、北海道教育大(80)、名寄市立大(84)は大幅減少

○東北(101)…17大学中13大学が減少。

【志願者数】弘前大(+803人)は前期では全国で2番目に大きな増加数だった。次いで、秋田県立大(+264人)の増加数が大きかった。一方で、福島県立医科大(-166人)、福島大(-140人)、秋田大(-132人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】弘前大(151)、秋田県立大(144)は大幅増加。一方で、課程を改組した宮城教育大(74)、山形県立保健医療大(79)、山形県立米沢栄養大(80)、福島県立医科大(80)は大幅減少。

○北関東(101)…10大学中5大学ずつが増減。

【志願者数】前年度のコロナ禍対策としての個別試験実施取りやめを例年の実施に戻した宇都宮大(+281人)は増加。次いで、群馬大(+178人)も増加。一方で、高崎経済大(-250人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】宇都宮大(124)は大幅増加。一方で、群馬県立県民健康科学大(72)、高崎経済大(84)は大幅減少。

○首都圏(101)…19大学中11大学が減少。

【志願者数】前年度のコロナ禍対策としての個別試験実施取りやめを例年の実施に戻した横浜国立大(+980人)は、経済(96)を除くいずれの学部も大幅増加し、前期では全国で最も大きな増加数だった。

次いで、東京大(+418 人)の増加数が大きかった。一方で、千葉大(-303 人)、東京都立大(-268 人)、東京農工大(-261 人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】横浜国立大(153)は大幅増加。一方で、神奈川県立保健福祉大(74)、東京農工大(83)は大幅減少、埼玉県立大(86)、千葉県立保健医療大(91)、横浜市立大(92)は減少。

○甲信越・北陸(99)… 22 大学中 12 大学が減少。新規実施の三条市立大を除いても(98)の微減。

【志願者数】新潟大(+432 人)、福井大(+334 人)の増加数が大きかった。一方で、富山大(-367 人)、信州大(-340 人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】新潟県立看護大(353)は 3.5 倍の激増、長野県看護大(151)、福井大(132)、富山県立大(118)、山梨大(115)は大幅増加。一方で、長野大(61)、山梨県立大(63)、石川県立看護大(63)、公立小松大(68)、上越教育大(71)、公立諏訪東京理科大(72)は指数 80 を下回る大幅減少。

○東海(96)…14 大学中 8 大学が減少。

【志願者数】岐阜大(+555 人)、愛知教育大(+136 人)は増加。一方で、三重大(-650 人)、工学部第二部の一般選抜を廃止した名古屋工業大(-411 人)、名古屋大(-242 人)、愛知県立大(-227 人)は減少した。

【志願者指数】岐阜大(126)、三重県立看護大(117)は大幅増加、愛知教育大(112)は増加。一方で、名古屋工業大(77)、三重大(79)、浜松医科大(79)、豊橋技術科学大(82)、岐阜県立看護大(85)は大幅減少、愛知県立大(88)は減少。

○近畿(101)…24 大学中 15 大学が増加。

【志願者数】大阪大(+510 人)、和歌山県立医科大(+223 人)、滋賀医科大(+214 人)、福知山公立大(+210 人)、滋賀大(+200 人)、工学部を新設した奈良女子大(+189 人)、京都大(+165 人)、京都府立大(+108 人)は増加。一方で、旧大阪市立大と旧大阪府立大が統合した大阪公立大(-806 人)の減少が目立ち全国で 2 番目に大きな減少数だった。

【志願者指数】福知山公立大(172)、滋賀医科大(163)が激増、和歌山県立医科大(142)、奈良女子大(130)、滋賀大(118)は大幅増加。一方で、京都教育大(84)、奈良県立医科大(85)、大阪公立大(85)は大幅減少。

○中国(89)…16 大学中 13 大学が減少。

【志願者数】島根県立大(+251 人)の増加数が目立った。一方で、山口大(-928 人)の減少数が目立ち、前期では全国で最も大きな減少数だった。これに次いで、下関市立大(-425 人)、新見公立大(-260 人)、尾道市立大(-215 人)の減少数も大きかった。

【志願者指数】島根県立大(138)は大幅増加、山口県立大(109)、山陽小野田市立山口東京理科大(108)は増加。一方で、新見公立大(52)、下関市立大(53)はほぼ半減、尾道市立大(68)、公立鳥取環境大(74)、山口大(74)は大幅減少、福山市立大(86)、県立広島大(87)、広島市立大(92)は減少。

○四国(112)… 9 大学中 7 大学が増加。

【志願者数】香川大(+549 人)、徳島大(+525 人)、高知大(+210 人)、高知工科大(+166 人)は増加。一方で、愛媛大(-150 人)、高知県立大(-129 人)の 2 大学のみは減少。

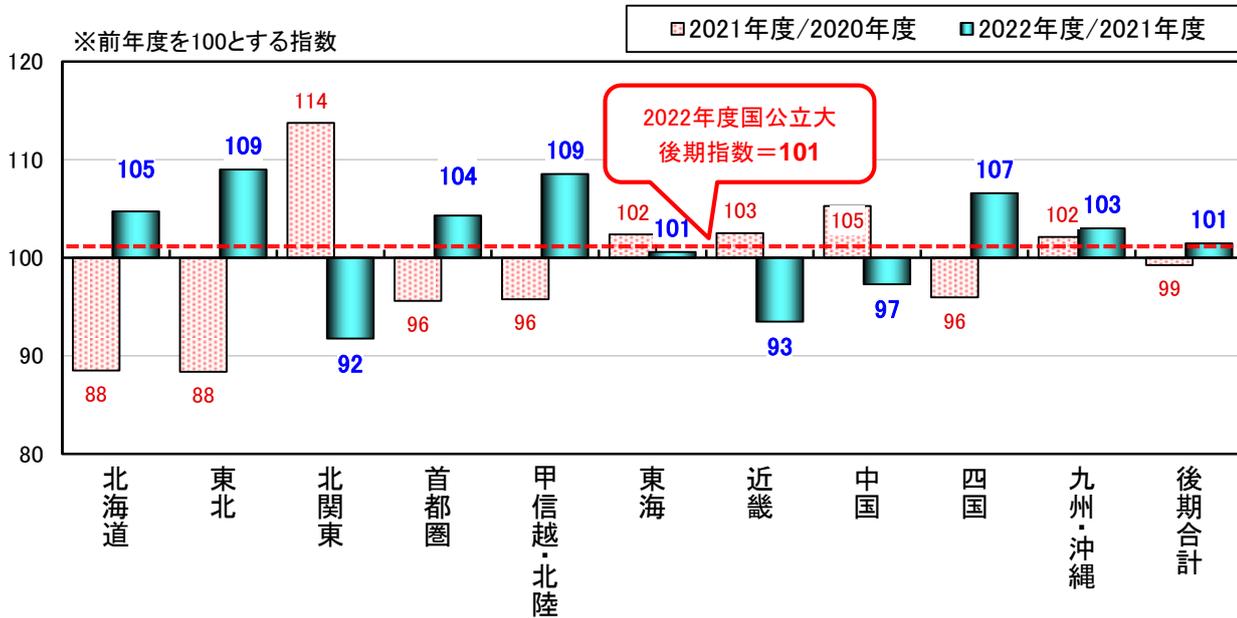
【志願者指数】香川県立保健医療大(134)、香川大(131)、徳島大(126)、高知工科大(118)は大幅増加、高知大(112)、鳴門教育大(109)は増加。一方で、愛媛大(114)は減少。

○九州・沖縄(99)… 23 大学中 13 大学が減少。

【志願者数】大分大(+446 人)、長崎大(+235 人)、長崎県立大(+199 人)は増加。一方で、名桜大(-308 人)、琉球大(-304 人)、鹿児島大(-218 人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】大分大(131)、福岡女子大(126)、長崎県立大(117)は大幅増加、鹿屋体育大(112)、熊本県立大(111)、大分県立看護科学大(109)、長崎大(109)は増加。一方で、名桜大(61)、宮崎県立看護大(67)、福岡県立大(69)、九州歯科大(72)は大幅減少。

<後期日程>



○北海道(105)…9 大学中 6 大学が増加。

【志願者数】北海道大(+590 人)、北見工業大(+117 人)は増加。一方で、北海道教育大(-388 人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】旭川医科大(138)、北海道大(117)は大幅増加、室蘭工業大(111)、北見工業大(110)は増加。一方で、公立はこだて未来大(73)、北海道教育大(80)は大幅減少、名寄市立大(88)は減少。

○東北(109)…14 大学中 11 大学が増加。

【志願者数】弘前大(+706 人)、岩手県立大(+255 人)、岩手大(+117 人)、秋田大(+110 人)は増加。一方で、福島大(-201 人)、課程を変更した宮城教育大(-129 人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】弘前大(168)、岩手県立大(128)は大幅増加、青森公立大(112)、岩手大(111)、秋田大(108)は増加。一方で、宮城教育大(67)は大幅減少、青森県立保健大(86)、福島大(88)は減少。

○北関東(92)…7 大学中 4 大学が減少。後期廃止の前橋工科大を除くと(98)の微減。

【志願者数】茨城大(+384 人)、宇都宮大(+208 人)は増加。一方で、高崎経済大(-598 人)、筑波大(-131 人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】宇都宮大(150)は大幅増加、茨城大(110)は増加。一方で、高崎経済大(56)、茨城県立医療大(81)は大幅減少、筑波大(91)は減少。

○首都圏(104)…15 大学中 10 大学が減少。

【志願者数】前年度のコロナ禍対策としての個別試験実施取りやめを例年の実施に戻した横浜国立大(+2,131 人)は増加し、後期では全国で最も大きい増加数だった。一方で、東京都立大(-766 人)は後期では全国で 2 番目に大きい減少数だった。次いで、千葉大(-631 人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】横浜国立大(192)は激増、東京外国語大(128)、一橋大(120)は大幅増加、お茶の水女子大(110)

は増加。一方で、横浜市立大(72)、東京都立大(74)は大幅減少、千葉大(88)、神奈川県立保健福祉大(90)は減少。

○甲信越・北陸(109)…13 大学中 8 大学が増加。

【志願者数】山梨大(+738 人)、福井県立大(+399 人)、新潟大(+334 人)、福井大(+313 人)の増加数が大きかった。一方で、医学部医学科の募集を廃止した富山大(-369 人)、富山県立大(-102 人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】新潟県立看護大(225)は倍増以上、山梨大(141)、福井県立大(141)、福井大(118)、上越教育大(117)、新潟大(116)は大幅増加。一方で、石川県立看護大(58)は大幅減少、敦賀市立看護大(86)、富山県立大(87)、富山大(90)は減少。

○東海(101)…13 大学中 7 大学が増加。

【志願者数】静岡文化芸術大(+333 人)、愛知教育大(+270 人)の増加数が大きかった。一方で、浜松医科大(-222 人)、岐阜大(-181 人)、三重大(-133 人)、名古屋工業大(-111 人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】静岡文化芸術大(174)は激増、愛知教育大(125)は大幅増加、静岡県立大(110)は増加。一方で、浜松医科大(38)は 60%以上の激減、名古屋大(70)は大幅減少、三重県立看護大(86)は減少。

○近畿(93)…20 大学中 11 大学が減少。

【志願者数】奈良県立医科大(+423 人)、福知山公立大(+283 人)、京都府立大(226 人)、工学部を新設した奈良女子大(+204 人)は増加。一方で、旧大阪市立大と旧大阪府立大が統合した大阪公立大(-1, 338 人)の減少が目立ち、後期では全国で最も大きな減少数だった。兵庫県立大(-634 人)は後期では全国で 3 番目に大きい減少数だった。これに次いで、滋賀大(-412 人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】福知山公立大(261)は 2.6 倍の激増、奈良県立医科大(148)、京都府立大(138)、和歌山県立医科大(130)、奈良女子大(125)は大幅増加。一方で、大阪公立大(63)、兵庫教育大(69)、兵庫県立大(72)、滋賀大(81)は大幅減少、神戸市看護大(87)、神戸市外国語大(87)、奈良教育大(89)、京都市立芸術大(89)は 10%を上回る減少。

○中国(97)…14 大学中 9 大学が減少。

【志願者数】広島大(+859 人)の増加が目立ち、後期では全国で 2 番目に大きい増加数だった。次いで、鳥取大(+307 人)の増加数が大きかった。一方で、県立広島大(-505 人)、岡山大(-341 人)、山口大(-320 人)、尾道市立大(-294 人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】広島大(144)、公立鳥取環境大(130)、鳥取大(116)、島根県立大(115)は大幅増加。一方で、県立広島大(61)、新見公立大(62)、尾道市立大(72)、岡山大(80)、岡山県立大(83)は大幅減少、山口大(90)、島根大(92)は減少。

○四国(107)…9 大学中 5 大学が増加。

【志願者数】徳島大(+634 人)、高知工科大(+319 人)の増加数が大きかった。一方で、香川大(-320 人)、愛媛大(-184 人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】愛媛県立医療技術大(151)、高知工科大(141)、香川県立保健医療大(130)、徳島大(126)、鳴門教育大(117)は大幅増加。一方で、香川大(76)は大幅減少、愛媛大(91)は減少。

○九州・沖縄(103)…21 大学中 11 大学が減少。

【志願者数】長崎県立大(+449 人)、大分大(+360 人)、琉球大(+360 人)、佐賀大(+342 人)、北九州市立大(+130 人)の増加数が大きかった。一方で、宮崎大(-284 人)、名桜大(-198 人)、福岡県立大(-188 人)、熊本大(-132 人)の減少数が大きかった。

2022 年度入試状況分析【国公立大】

【志願者指数】大分県立看護科学大(130)、長崎県立大(128)、大分大(127)、琉球大(117)は大幅増加。一方で、名桜大(63)、沖縄県立芸術大(65)、福岡県立大(71)、沖縄県立看護大(79)、宮崎県立看護大(84)、宮崎公立大(84)は大幅減少。

<中期日程>

今年度から中期を実施する前橋工科大、三条市立大を除いた 22 大学中 12 大学が増加。

【志願者数】旧大阪市立大と旧大阪府立大が統合した大阪公立大(+1,543 人)は、旧大阪府立大の工との比較で増加が目立ち、中期では全国で最も大きな増加数だった。公立諏訪東京理科大(+354 人)、岐阜薬科大(+321 人)、山陽小野田市立山口東京理科大(+252 人)、都留文科大(+233 人)の増加数が大きかった。一方で、下関市立大(-491 人)、静岡県立大(-366 人)、公立小松大(-315 人)、長野県立大(-223 人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】長野県看護大(199)は激増、岐阜薬科大(142)、大阪公立大(133)、公立諏訪東京理科大(128)、長野大(116)、公立千歳科学技術大(115)、山陽小野田市立東京理科大(115)は大幅増加。一方で、長野県立大(67)、静岡県立大(67)、新見公立大(72)、公立小松大(75)、下関市立大(80)は大幅減少。

<独自日程>

三条市立大が分離分割方式(前期・中期日程)となり、国際教養大、新潟県立大、叡啓大の 3 大学 4 学部となった。

【志願者数】国際教養大は(-88 人)、叡啓大(-38 人)の減少。一方で、新潟県立大(+406 人)は増加。

【志願者指数】叡啓大(41)は 59%の大幅減少で志願倍率も 6.4 倍→2.6 倍にダウン、国際教養大(92)は減少で 3 年連続減少。一方で、新潟県立大(118)は大幅増加で 5 年ぶりに増加。

次に、地区別に増減数が 150 人以上かつ増減率が 15%以上の大学をまとめました。

○北海道

前期	増加	室蘭工業大	+164人	前年度大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、2 学科とも大幅増加。
	減少	北海道教育大	-319人	系統への低い人気に加えて、コロナ禍による移動の敬遠による極端な地元志向の緩和から大幅減少。
後期	増加	北海道大	+590人	医(保健)の募集停止があったが、2 年連続減少の反動とコロナ禍による移動への敬遠の緩和で大幅増加。学部別では、法(99)を除く学部はいずれも増加で、特に経済(184)、薬(174)は激増。
	減少	北海道教育大	-388人	系統への低い人気に加えて、コロナ禍による移動の敬遠による極端な地元志向の緩和から大幅減少。

○東北

前期	増加	弘前大	+803人	理工(181)、教育(171)、医(保健)(164)は激増、医(医)(141)、人文社会科学(136)、医(心理支援)(124)は大幅増加。
		秋田県立大	+264人	前年度大幅減少の反動で大幅増加。システム科学技術(知能メカトロにクス)(79)以外のいずれの学科も大幅増加。
	減少	福島県立医科大	-166人	前年度大幅増加の反動で大幅減少。新設 2 年目の保健科学(58)は大幅減少、医(90)は減少で前年度の反動による増減が継続。
後期	増加	弘前大	+706人	教育(253)、理工(207)、農学生命科学(170)は激増。
		岩手県立大	+255人	総合政策(446)は 4 倍以上の激増、看護(130)は大幅増加。

○北関東

前期	増加	宇都宮大	+281人	前年度のコロナ禍対策としての個別試験実施取りやめを例年の実施に戻した影響もあり、国際(202)は激増、農(120)、工(119)、共同教育(117)は大幅増加。
	減少	高崎経済大	-250人	地域政策(60)は 4 年連続減少で、志願者数は 700 人を下回った。
後期	増加	宇都宮大	+208人	地域デザイン(152)は 2 年連続大幅減少の反動で大幅増加、農(115)は 2 年連続大幅増加。
	減少	高崎経済大	-598人	前年度 4 年連続減少の反動から増加したが、減少に戻った。

2022 年度入試状況分析【国公立大】

○首都圏

前期	増加	横浜国立大	+980人	前年度のコロナ禍対策としての個別試験実施取りやめを例年の実施に戻した影響から、経済(96)を除くいずれの学部も大幅増加。
	減少	東京農工大	-261人	全学科で減少。工(81)は大幅減少、農(86)は減少。
後期	増加	横浜国立大	+2,131人	前年度のコロナ禍対策としての個別試験実施取りやめを例年の実施に戻した影響から、いずれの学部も大幅増加。特に、経営<後>(202)、都市科学<後>(195)、理工<後>(194)、経済<後>(175)は激増。
		東京外国語大	+289人	前年度大幅減少の反動で大幅増加。現在の募集人員となった2019年度以降で初の増加。
		一橋大	+208人	経済(120)のみの募集で、3年連続減少の反動で大幅増加。
	減少	東京都立大	-766人	大幅減少で共通テストの平均点大幅ダウンの影響と前年度増加の反動が見られ、志願者数は2018年度の改組後で最少。

○甲信越・北陸

前期	増加	福井大	+334人	医(看護)(300)は3倍増で4年ぶりの増加、医(医)(192)、教育(191)は激増、国際地域(144)は大幅増加。
		新潟県立看護大	+167人	前年度半減の反動と共通テストの平均点ダウンにより、目標ラインが5割強とそれほど高くないことで激増。
		富山県立大	+155人	工(131)が大幅増加。
	減少	山梨県立大	-230人	看護(39)は激減、人間福祉(89)、国際政策(90)は減少。
		長野大	-212人	社会福祉(36)は激減、環境ツーリズム(53)は大幅減少。
		公立諏訪東京理科大	-160人	前年度半減に引き続き大幅減少。
後期	増加	公立小松大	-155人	生産システム科学(54)、国際文化交流(60)は大幅減少。保健医療(97)はやや減少。
		山梨大	+738人	生命環境(160)は激増、医(医)(153)、工(151)は大幅増加。
		福井県立大	+399人	経済(148)、海洋生物資源(139)は大幅増加、看護福祉(114)は増加。
		新潟大	+334人	経済科学(177)、農(171)、歯(146)が大幅増加。
	福井大	+313人	医(看護)(184)、教育(174)は激増、医(医)(124)は前年度大幅減少の反動と富山大の後期廃止による流入で大幅増加。	
中期	増加	公立諏訪東京理科大	+354人	前年度大幅減少の反動で大幅増加。
	減少	公立小松大	-315人	前年度大幅減少の反動で大幅増加。生産システム科学(64)、国際文化交流(66)は大幅増加。
		長野県立大	-223人	グローバルマネジメント(59)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。

○東海

前期	増加	岐阜大	+555人	教育(169)は激増、工(145)、医(医)(131)の大幅増加もあり、大学全体で4年ぶりに増加。
	減少	三重県立大	-650人	教育(44)、医(看護)(80)は大幅減少、工(88)、生物資源(89)は減少。
		名古屋工業大	-411人	工二の廃止もあり大幅減少。工のみでも309人(82)の大幅減少。
後期	増加	静岡文化芸術大	+333人	文化政策(189)は激増、デザイン(146)は大幅増加。
	減少	愛知教育大	+270人	共通テストの得点を300点に圧縮する募集単位が多いため、共通テストの平均点ダウンの影響が緩和された結果、大幅増加。
		浜松医科大	-222人	2年連続増加の反動で激減。志願倍率も23.8倍→9.0倍に大幅ダウン。
中期	増加	岐阜薬科大	+321人	3年連続減少の反動で大幅増加。志願者数は6年ぶりに1,000人を上回った。
	減少	静岡県立大	-366人	薬(67)は大幅減少で、2017年度以降前年度の反動による増減が継続。

○近畿

前期	増加	和歌山県立医科大	+223人	新設2年目の薬(172)は激増、保健看護(136)、医(121)は大幅増加。
		滋賀医科大	+214人	医(看護)(162)、医(医)(162)とともに激増。
		福知山公立大	+210人	地域経営(186)は激増、情報(151)は大幅増加で2020年度新設以降連続増加。
		滋賀大	+200人	経済(127)は大幅増加。データサイエンス(113)は増加。
		奈良女子大	+189人	理(164)は激増、新設の工は志願者数107人で志願倍率6.3倍。
後期	増加	奈良県立医科大	+423人	前年度減少の反動で激増。志願倍率も16.8倍→24.7倍にアップ。
		福知山公立大	+283人	地域経営(373)は前年度大幅減少の反動で激増、情報(141)は2020年度新設以降連続増加。
		京都府立大	+226人	生命環境(184)は激増、文(130)、公共政策(128)は大幅増加。
		奈良女子大	+204人	理(150)は大幅増加。新設の工は志願者数121人で志願倍率12.1倍。
	減少	大阪公立大	-1,338人	旧大阪市立大と旧大阪府立大が統合した大阪公立大は、旧2大学との比較で大幅減少。募集人員の減少と旧大阪市立大・工(前年度志願者数802人)の募集停止が影響。
		兵庫県立大	-634人	看護(64)は、工(70)、環境人間(75)、国際商経(76)は大幅減少。
		滋賀大	-412人	3学部全て大幅減少で、データサイエンス(81)は3年連続減少、経済(81)は3年連続大幅減少、教育(84)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
中期	増加	大阪公立大	+1,543人	旧大阪市立大と旧大阪府立大が統合した大阪公立大は、旧大阪府立大の工との比較で大幅増加。従来からの他大学からの併願に加えて、新たに大阪公立大・工<前>との学内併願が可能になった影響。

※大阪公立大は旧大阪市立大と旧大阪府立大との比較

2022 年度入試状況分析【国公立大】

○中国

前期	増加	島根県立大	+251人	人間文化(180)は激増、改組2年目の総合政策(154)、地域政策(119)はいずれも大幅増加。
	減少	山口大	-928人	工(39)は前年度激増の反動と共通テスト重視配点のため共通テストの平均点ダウンの影響も加わり激減。医(医)(70)、教育(73)、人文(84)、医(保健)(85)は大幅減少。
		下関市立大	-425人	3年連続増加の反動で大幅減少。
		新見公立大	-260人	6年連続増加の反動で大幅減少。
		尾道市立大	-215人	経済情報(58)は大幅減少、芸術文化(86)は減少。
公立鳥取環境大	-180人	前年度増加の反動で大幅減少。		
後期	増加	広島大	+859人	生物生産(193)、工(191)、経済(178)、歯(168)、法(167)、文(163)、総合科学(154)、理(141)は大幅増加。共通テストの平均点ダウンの影響で、前期上位大学志願者の併願先として狙われた。
		鳥取大	+307人	地域(213)は激増、農(138)は大幅増加でいずれも2年連続増加。
	減少	県立広島大	-505人	地域創生(36)は激減、生物資源科学(50)は半減。
		岡山大	-341人	経済夜の廃止もあり大幅減少。工(56)は激減、経済(69)、農(78)、歯(78)、法(80)は大幅減少。
		尾道市立大	-294人	経済情報(67)、芸術文化(84)は大幅減少。
中期	減少	下関市立大	-491人	2年連続大幅減少で、志願者数は1999年度に中期日程導入以来初めて2,000人を下回った。

○四国

前期	増加	香川大	+549人	創造工(166)、農(155)、法(126)、経済(116)、医(医)(136)は大幅増加。
		徳島大	+525人	総合科学(313)、生物資源産業(195)は激増、医(保健)(146)、理工(124)は大幅増加。
		高知工科大	+166人	環境理工(388)は激増、情報(116)は大幅増加。
後期	増加	徳島大	+634人	生物資源産業(216)は激増、総合科学(187)、医(保健)(121)は大幅増加、理工(114)は増加。
		高知工科大	+319人	環境理工(194)、システム工(149)、情報(131)は大幅増加。
	減少	香川大	-320人	教育(62)、経済(73)、創造工(75)は大幅減少。

○九州・沖縄

前期	増加	大分大	+446人	医(看護)(248)は激増、医(医)(142)、教育(132)、理工(145)は大幅増加。
		長崎県立大	+199人	地域創造(167)は激増、看護栄養(138)、情報システム(125)は大幅増加。
	減少	名桜大	-308人	国際(52)はほぼ半減、人間健康(73)は大幅減少。
福岡県立大		-171人	看護(64)、人間社会(72)は大幅減少。	
後期	増加	長崎県立大	+449人	地域創造(175)は激増、看護栄養(133)、情報システム(125)は大幅増加。
		大分大	+360人	理工(187)は激増、福祉健康科学(138)、教育(126)は大幅増加。
		琉球大	+360人	工(202)は倍増以上、医(保健)(142)は大幅増加。
	減少	名桜大	-198人	国際(56)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
		福岡県立大	-188人	看護(60)、人間社会(75)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。